

# 新雪の中で笑顔いっぱい躍動する子どもたち!!

## 第8回スノーフェスティバル・冬の大運動会

今年も、例年になく大雪で厳しい冬となりました。3年に及ぶコロナ禍は、子どもたちの生活にも大きく影響を与えてきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次々に活動の中止・縮小・自粛を強いられてきました。そのような状況の中でも子どもたちの遊びの環境づくりを目指し、北斗スポーツクラブ（NOS）と北斗市スポーツ推進委員会では、この状況を踏まえ多くの子どもたちが気軽に屋外に出て北国ならではのスポーツや遊びを体験する機会を作ることとを考えてきました。そして、冬の厳しい環境の中でも雪に親しみ身体を動かす「仲間と集う」ことの楽しさを体験してほしいと願い、「第8回スノーフェスティバル・冬の大運動会」を企画し、開催しました。

この事業が、冬季間の運動不足の解消や地域の交流の場となるきっかけになればと願っています。

### ◎快晴無風のベストコンディション!!

「第8回スノーフェスティバル・冬の大運動会」が、1月9日（月・祝）快晴無風のベストコンディションの中、運動

公園自由広場で開催されました。積雪も多く、雪中での競技を行うにはすばらしい条件となりました。今年



負けないぞ! ダイビング! 「スノーフラッグ」

は、当日申し込み9名を含め幼児・小学生、一般の皆さま総勢84名の参加となり、雪上では熱戦が繰り広げられました。晴天の中、応援に駆け付けた保護者の皆さまから大きな声援が上がり、会場は大いに盛り上がりました。

### ◎フェスティバルの様子

午前10時から開会式が行われた後、けが防止のためラジオ体操を行ってから競技を開始しました。今回は、7種目の競技を用意しました。

まず、「スノーフラッグ」では、10メートル先の旗を奪い合い、幼児の部・低学年の部・高学年の部・一般男子の部・一般女子の部に分けて行い、参加者は柔らかな雪で足を取られる場面がありながらも、一生懸命に駆け抜け旗を奪い合っていました。

その白熱した展開に、参加者も応援していた保護者の皆さまも笑顔が見られました。

次の「雪積み上げ競走」では、小学生5チーム、親子3チームに分け、3分間でどれだけ高く雪を積み上げられるか競いました。新雪で固まりにくい雪に苦戦しながらも、皆で協力して雪を積み上げる姿が印象的でした。

次の「おしり相撲大会」では、上着を脱いで対戦する人もいて、笑いあふれる対戦が多かったです。

恒例の「雪中綱引き」では、紅白に分かれ両チーム譲らず、延長戦に突入する大接戦となりました。手のひらの痛みを訴えながらも、絶対負けてたまるか気持ちのこもった子どもたちの表情からは逞しさを感じました。

そのほか、「雪中かるた」「〇×クイズ」なども大いに盛り上がり、最後の「ソリレー」では、参加者全員を5チームに分け、1人をソリに乗せ、もう1人は15メートル先のカラーコーンを回って



力と力のぶつかり合い「雪中綱引き」

戻ってくる速さを競いました。ソリから落ちてしまったり、子どもを抱えて走る親子がいたり、子どもと大人が一緒に参加する楽しい企画となりました。

閉会式では、冬の寒い時期でも「外に出て遊んでほしい」との思いを込めて、参加賞でソリをプレゼントすると、子どもたちはとても喜んでいました。

### ◎事業を終えて

新型コロナウイルス感染症が流行してから早くも3年が経過し、人々の対応もかなり慣れ、共生の意識が高まっています。その中で



転んでもへっちゃら! 「ソリリレー」

の開催となり、参加者の感染対策もしっかり行われていました。閉会式が終わった後には、豚汁が無料提供され、参加した皆さまの冷え切った体に染み入ったことと思います。天候にも恵まれ、大きな事故やけがもなく無事に終えることができたことに、関係者や参加した皆さまには心から感謝いたします。ありがとうございました。

（北斗市スポーツ推進委員会

委員長 安達 孝義）